

# 沖縄県平和祈念資料館だより



## Interview 第12代館長・きじ はな ふみ お 雉鼻章郎

今年度、就任された雉鼻館長は、赴任早々コロナ対応に追われる一年間でした。資料館始まって以来、県外出身の館長です。資料館で退職を迎えられる館長に新人の学芸員がインタビューしました。

**Q1** 沖縄県職員採用は？

**A1** 1998 年中途採用試験を受け、1999 年から 23 年間、農林から福祉、企画、東京勤務を経て産業振興公社などを経験しました。

**Q2** 県庁職員として思い出に残る事業は？

**A2** 当時 NHK 朝ドラの「ちゅらさん」ブームの頃、沖縄特産品である「ゴーヤー（苦瓜）」も人気が出て、どのようにしたら県外の人々に売り込むかチームで取り組みました。今ではすっかり日本中に定着してきたことを嬉しく思います。

**Q3** 資料館に始めて採用された学芸員へ期待することは。

**A3** できる限り、様々な分野の職員と交流し、多くの経験を積み、幅広い知識と人脈を広げて、資料館の運営に役立ててほしいです。



展望塔から望む「平和の礎」 2022年3月

## 平和の波を世界へ

「春分の日」をすぎると、沖縄は「うりずん」といわれる若夏の季節がやってきます。平和祈念公園のクワディーサー（モタマナ）の古い葉もすっかり落ち、新芽と入れ替わる時期となります。この頃、資料館の展望台から、「平和の礎」石碑全体がよく見えます。ここ数年、世界中が新型コロナウイルスに翻弄されていますが、当館も人数の制限や消毒等、基本的な対策を行いながら業務を続けています。

当館では、県内の小中学校・高等学校及び特別支援学校の児童生徒を対象に、職員による「平和講話」を行っています。展示資料を観る前に「沖縄戦の実相」を学び、証言者の体験記録や映像に触れ、平和の礎の緑の中を散策することで、平和の尊さや命の大切さを感じることでしょう。戦争は突然に起こるわけではありません。日々の生活の中でいじめや人権の問題や命の大切さを学び合うことで、戦争に繋がる一切の行動を阻止する勇気と智慧、考える想像力を身につけることが大切です。

改めて戦争体験者の声に耳を傾けてみましょう。沖縄から平和の波を、平和の声を世界に届けましょう！



職員による平和講話の様子



## 大人のための平和学習 ～学び直しの沖縄戦～子・孫と学び合うために～

今年度は、様々な行事がコロナ感染拡大防止の影響を受けました。昨年度より、学芸班が取り組んできた「大人のための平和学習」も何度も延期と中止の繰り返しでした。それでも沖縄戦を改めて学び直したいという方や折角沖縄に来たので「沖縄戦」について、学びたいという県外の方も参加されました。普段は、県内の児童生徒を相手に「平和講話」をしています。一般の方々と相手に沖縄戦について話すことはとても緊張します。逆にいろいろ教えて頂き大変勉強になりました。「大人のための平和学習」は、好評につき今後も継続して行う予定です。



第5展示室を案内する職員

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁 614 番地の 1 TEL.098-997-3844 FAX.098-997-3947  
URL <http://www.peace-museum.okinawa.jp/> E-MAIL [webmaster@peace-museum.okinawa.jp](mailto:webmaster@peace-museum.okinawa.jp)



日本平和博物館会議  
ASSOCIATION OF JAPANESE MUSEUMS FOR PEACE

# 八重山平和祈念館活動紹介

令和3年度 八重山平和祈念館企画展

イクサユー

ハイワユー

## 戦世の始まりから未来の平和世を考える ～戦争は突然やってこない～

期間 2021年(令和3年)12月15日(水)～2022年(令和4年)1月30日(日)



2021年は、アジア・太平洋戦争の始まりから80年、満州事変から90年、宮古島島民遭難事件から150年と戦争の始まりやきっかけとなった事件の歴史の節目となる年でした。

企画展では、近代の戦争の始まりから太平洋戦争後までの時代の流れとともに、当時の人々の暮らしや出来事を、証言や写真、実物資料など含め展示しました。

人々の平和な暮らしから否応なく「銃後の守り」として、国防婦人会、大日本婦人会へとのみ込まれていく様子が記された貴重な資料「昭和初期の婦人会議事録」は、実物と合わせてレプリカも展示しました。また、手榴弾(実物)、当時の教科書(レプリカ)も展示し、実際に触れることで、理解を深められるよう工夫しました。

未来を担う子ども達の視線として、宮良小学校の平和学習壁新聞も展示しました。

この企画展が、過去と現在、そして未来へと繋がっていることを実感し、節目のこの年が平和な未来へと向かう年となるために、深く考える機会としました。

### 【展示内容】

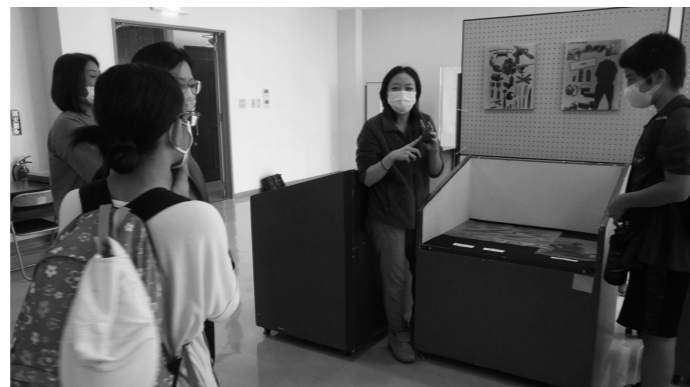
- (1) 近代の戦争の歴史を資料を使い解説
- (2) 戦争を語る実物資料の展示
- (3) 戦争体験者の証言、写真、当時の新聞でその時代を知る
- (4) 世代の垣根を超えて平和を考える  
(小学6年生の平和学習壁新聞の展示)



手榴弾の実物資料に触れて重さなどを確認する郡内小学校の児童たち



展示(西表炭鉱の歴史)を観覧する男女



説明を聞く郡内小学校の児童たち

## 資料は語る

### 生活改善のはずが銃後の守りへ

解説:八重山資料研究会 山根頼子さん

昭和4年から18年までの新川婦人会の議事録には、設立の準備から戦争が激しくなるまでの15年間が記録されている。

綴り冒頭の会則には、会の目的を「主婦トシテノ務ヲ完フシ生活ノ改善向上ヲ図ルヲ以テ組織ス」とあり、生活改善が目的だと明記されている。

昭和7年、第三回の主婦会記録をみると、午後一時から神村英喜氏宅で165人の出席者で開催。講話の後の余興は「字青年手踊」だったようだ。感想に「門の内外混乱」や「余興人が焦って講話を少なくした」などあり、人々が余興の方を楽しみにしていた雰囲気が伝わる。

しかし同月、「貯金より金三円を満蒙派遣軍慰問金として寄付」の記述を皮切りに式順から「ミルク節」や「ヤーヨー」が消え、「遙拝」や「君が代」の記述が登場してくる。講話も「非常時ニ処スル婦人ノ覚悟」と戦争の気配が濃くなっていく。

生活改善向上を目指し設立した新川婦人会だが、否応なく「銃後の守り」として、国防婦人会、大日本婦人会へとのみ込まれていく。



「議事録の原本」と「解説」を展示しました。ご寄稿いただいた解説のおかげで、資料への理解をより深めることができました。



当時の教科書(レプリカ)の展示。軍国主義が次第に濃くなって行く時代の変化が見られます。



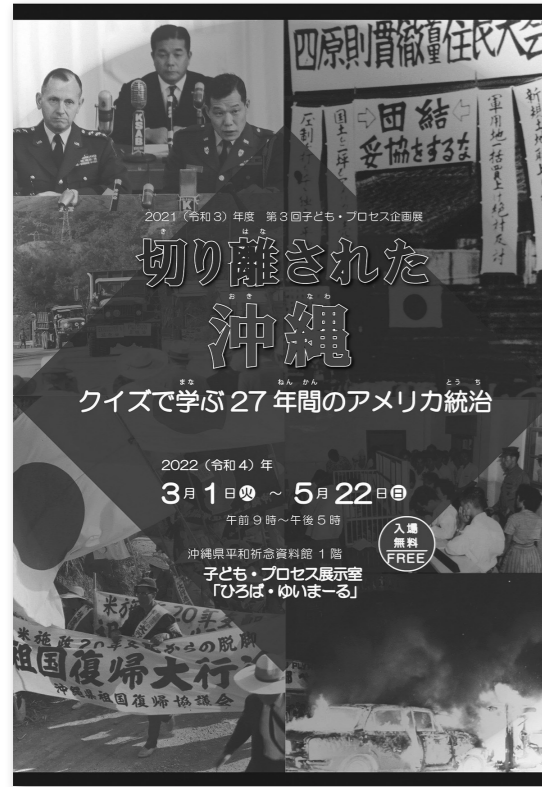
展示風景

## アンケートに寄せられた感想

- ◆八重山地域内 40歳 女性 職業:一般  
1600年代頃からの日本、中国、沖縄、世界の文化、風俗、情勢、色々な要因の中から、戦世に入って終戦まで様々な情報がまとめてあって、大変勉強になりました。
- ◆八重山地域内 77歳 女性 職業:なし  
詳細な年表に合わせた資料をわかりやすく配置して視覚に訴えていて、よかったです。
- ◆県外 女性 職業:大学教員  
当時の新聞や教科書は大変貴重な資料で証言とともに展示されているため、現実の事実と認識を新たにしました。
- ◆県外 13歳 女性 中学生  
実際につかわれていたものをさわったりみたり、写真をみたり、資料を見て、いろんなことを学ぶことができました。いい経験になりました。
- ◆県外 52歳 女性 職業:教員  
知らないことがまだまだたくさんあることに気づきました。伝えていきたいと思っています。今、6年生(担任)なので、特に子どもたちの平和新聞にも感心しました。
- ◆県内 68歳 男性  
本島からみる戦争と、八重山からみる視点が違って、参考になりました。中国や台湾との関係、日本政府の対応についても知られていない事実が多くあるなと感じました。歴史の真実を後世に。すばらしい企画です。

# 第3回 子ども・プロセス企画展 切り離された沖縄 —クイズで学ぶ27年間のアメリカ統治—

期間 2022年(令和4年) 3月1日(火)～ 5月22日(日)



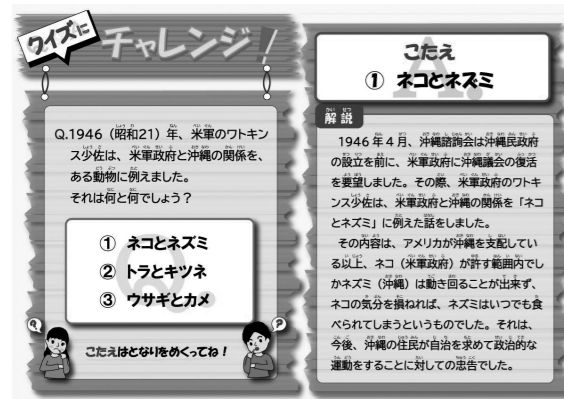
今年は、1972年に沖縄が日本に復帰してから、50年の節目の年になります。沖縄は、1945年に激しい地上戦の末にアメリカ軍に占領されました。そして、サンフランシスコ平和条約により、1952年4月28日に日本から切り離されてアメリカの施政権下に置かれました。

今回の企画展では、アメリカ統治下の沖縄で起こった出来事に関するクイズを中心に展示しています。クイズを通して、日本で沖縄だけが経験した、アメリカ統治下の状況について理解を深め、太平洋戦争によってひきおこされた沖縄県民の苦難と平和への願いについて考える機会とします。

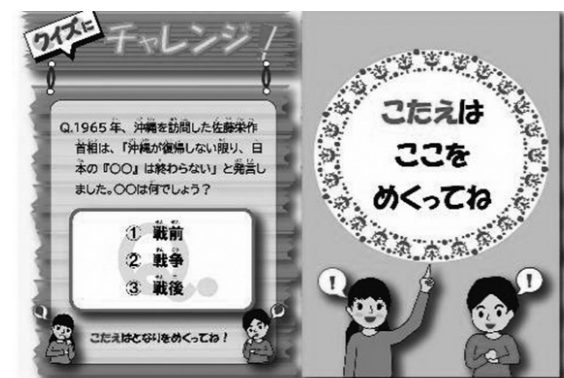
### 【展示内容】

- (1) 米軍の沖縄占領
- (2) 収容所への住民隔離
- (3) アメリカによる沖縄支配
- (4) 沖縄の帝王・高等弁務官
- (5) 復帰運動と沖縄返還
- (6) 「祖国復帰」から50年

今回の企画展では、アメリカ統治下の沖縄の状況について、より深く、楽しく学んでもらうために、全部で31問のクイズを展示しています。



▲クイズに挑戦する子どもたち



◀企画展で展示されているクイズ

# 第3回ギャラリー展 「あの日の沖縄【戦後編】」

期間 2022(令和4)年 2月25日(金)～5月12日(木)



令和3年度第3回ギャラリー展のテーマは「戦後の沖縄」です。戦後間もない頃の収容所の様子や、人々の暮らしなど写真を中心に展示しています。また、当時の教員、生徒、校舎の様子や収容所での衣・食・住に関する貴重な体験者の証言を実物資料の写真パネルとともに紹介しています。

貧しい生活の中懸命に、逞しく生きた沖縄の人々の様子をこの展示を通して多くの人に知っていただき、今生きている私達の平和な生活について改めて考える機会となれば幸いです。

### 【展示内容】

- (1) 収容所での暮らし(住民の様子)
- (2) 学校の再開と教員養成
- (3) 遺骨収集と慰霊塔
- (4) 慰霊塔の建立
- (5) 住民はどんな暮らしをしていた?
- (6) 戦後の離島(先島諸島)



ギャラリー展 展示風景



クイズに挑戦する男女



地図やイラストなどを用いた展示を行っています。

## 戦後の戦争体験者証言映像公開に向けての取り組み

当館は、これまで戦後の復興に焦点をあて様々な地域で終戦を迎えられた方 30 名のインタビューを行ってきました。昨年度収録した映像がもうすぐ多言語で WEB 公開されるお二人を紹介します。



「織には自分の心が映る」  
と語る平良敏子さん

1974（昭和 49）年、「喜如嘉の芭蕉布」が国の重要無形文化財に指定されました。その後、平良敏子さんは、喜如嘉の芭蕉布保存会の会長に就任し、芭蕉布の振興や後進の育成に尽力しました。その功績が認められ 2000（平成 12）年に国指定重要無形文化財「芭蕉布」保持者（いわゆる「人間国宝」）として各個認定されました。

沖縄戦中、ハワイの強制収容所に  
移住させられた体験を語る古堅實吉さん

古堅實吉さんは、戦後の米軍統治下で琉球政府立法議員や沖縄人民党書記長を務め、日本復帰後は、沖縄県議会議員を経て衆議院議員として活躍しました。ご自身の戦争体験から、戦後は一貫して反戦平和の活動を継続し、沖縄の基地問題や人権問題に取り組んできました。議員退職後も強い使命感で沖縄戦の体験を語り継いでいます。



## 令和3年度「平和への思い」発信・交流・継承事業報告

本事業は、若い世代への戦争体験などの継承、アジア諸国との相互理解、平和構築のためのネットワークを形成を目指した人材育成事業で、昨年 11 月 22 日から 26 日の日程で開催しました。今年度、初めて文化や教育システムも異なる若者が、沖縄の児童・生徒のために平和学習教材を作成しました。現在、各地域で勃発している紛争や人権問題は、非常に複雑ですが、若い学生達が短い期間で議論を通してまとめた教材が、児童生徒の平和学習に寄与することができれば幸いです。



最終日にリモートで参加者全員の記念撮影

- 沖縄県 / テーマ「アジアの学生と交流して考えた平和構築」対象：中学生～高校生
- 長崎県 / テーマ「長崎県原爆投下」対象：小学生～中学生
- 広島県 / テーマ「広島県原爆投下」対象：中学生
- カンボジア / テーマ「カンボジア大虐殺（ポル・ポト政権下の虐殺）」対象：高校生
- ベトナム / テーマ「ベトナム戦争」対象：高校生
- 台湾 / テーマ「2.28事件」対象：高校生
- 韓国 / テーマ「済州島4.3事件」対象：高校生

各地域の参加学生が作成した教材を、当館 HP からダウンロードできます。  
<http://www.peace-museum.okinawa.jp/umui/>



沖縄代表の学生たち

## 【新収蔵品展】2019(令和元)年度・2020(令和2)年度寄贈資料

新収蔵品展  
2022年(令和4年) 3月14日(月) - 6月10日(金)  
開催場所 沖縄県平和祈念資料館 1階企画展示室  
時間 午前9時～午後5時(常設展示室のみ最終入室午後4時半)  
主催 沖縄県平和祈念資料館 TEL:098-997-2844 FAX:098-997-2847  
HP: http://www.peace-museum.okinawa.jp/

期間 2022(令和4)年3月14日(月)～6月10日(金)

場所 沖縄県平和祈念資料館 1階企画展示室

当館では、これまでに寄贈された資料を戦前・戦中・戦後にわけて公開する「新収蔵品展」が開催しています。この企画展は、2年に1度開催するもので、今年度は、2019年度から2020年度にかけて受贈した資料を紹介しします。

戦死の際に個人を認定するために兵士が身につけていた「認識票」をはじめ、6年前に修学旅行生が壕の中で見つけた日本軍の銃剣、出征先から娘に贈られた鮮やかな絹の反物や戦地での様子を知らせる絵はがき等約 70 点を展示しています。寄贈して頂いた収蔵品の中には、勝連在住の平安名さんの祖父である平安名榮吉が日露戦争時に出征のために用意していた軍服もあります。幸い榮吉さんは、従軍せずにすみましたが祖母が大切に保管していたようです。祖父と同じ名前の榮吉さんは、祖父と沖縄戦を生き抜き繋いでくれた祖母や両親から命の大切さを感じていたようです。



寄贈者の花城さん(左から1番目)、平安名さん(左から2番目)と記念撮影



マスコミの取材に答える平安名さん

## 令和3年度 博物館学芸員実習の報告

当館では、県内外の大学で学芸員資格を取得しようとする学生を受け入れ、当館事業の一端を学ぶことを通して、学芸員としての資質向上を図っています。

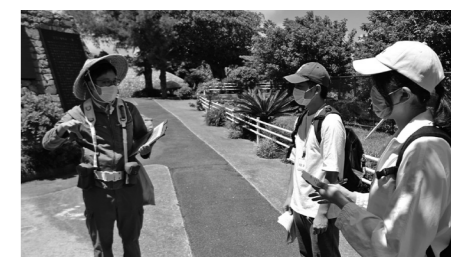
今年度は、2021(令和3)年8月24日～9月1日まで、沖縄国際大学の照屋さんと広島県安田女子大学の玉城さん 2 名の実習生を受け入れました。当館の平和推進活動の学芸員の事業である資料収集・保存、展示、調査研究、教育普及活動を通して、学芸員としての知識や技能、心構えをしっかり学んだ 7 日間でした。



「お疲れ様!」と班長から記念品が渡されました



資料を観察してスケッチ



摩文仁公園内に残る戦争遺跡のフィールドワーク